

# 戦後70年の 安倍政権の 戦後政策を 問う

# 3/27

3月27日(金曜日)  
午後6時開場—6時30分開始  
エルおおさか(地下鉄/京阪  
天満橋下車) 6F大会議室  
資料代 800円



お話し

## 田中利幸さん

【広島市立大学広島平和研究所教授】



■「イラク戦争と「過去の克服」に失敗した3つの国」■

2003年3月19日の米英軍による空爆「イラク自由作戦」で始まったイラク戦争から12年。イラク市民はいまだに「自由」で安定した社会からはほど遠い、混乱した政治社会状況の中で、毎日、生命を脅かされる生活を強いられています。イラク戦争は「イスラム国家」という一大暴力組織を産み出し、暴力と殺戮の連鎖は世界各地へとますます拡大しています。

イラクが大量破壊兵器を隠し持っているという虚偽の口実で戦争を始めた米国は、「自由と民主主義」を守るためと称して、原爆による無差別大量虐殺とその後の数々の戦争で多くの市民虐殺を繰返してきました。その米国の全面的支援を受けるイスラエルは、ホロコーストという史上最悪の民族抹殺行為の被害民族国家でありながら、パレスチナをはじめ近隣諸国市民の虐殺を繰り返し、長年のあいだ中近東でさまざまな政治危機の原因を産み出し続けてきました。そして今や、虚妄で塗り固めた政策を次々に打ち出している安倍晋三を首相とする日本が、中近東のこの泥沼に足を踏み込みつつあります。米、イスラエル、日本の3国には、それぞれ過去の戦争体験からならんら学んでいない、すなわち「過去の克服」に失敗したという共通性が見られます。

これら3国の中近東政策を検討し、「過去の克服」がその国の「民主主義確立」にとっていかに重要であるかを議論します(田中利幸)。

田中 利幸(たなか としゆき)さんプロフィール/福井県永平寺町生まれ。西オーストラリア大学にて博士号取得。20年以上、オーストラリアの大学で教員を務めたあと、敬和学園大学教授を経て、2002年より広島市立大学広島平和研究所教授。2015年3月末に定年退職予定。著書に『知られざる戦争犯罪』(1993年)、『空の戦争史』(2008年)、*Hidden Horrors: Japanese War Crimes in World War II* (1996年)、*Japan's Comfort Women: Sexual Slavery and Prostitution during World War II and US Occupation* (2001年)、共著に『原爆とヒロシマ』(2011年)、編著に『戦争犯罪の構造』(2007年)。共編著に *Bombing Civilians: A Twentieth Century History* (2009年)、*Beyond Victor's Justice: The Tokyo War Crimes Trial Revisited* (2011年)、『再論 東京裁判』(2013年) などがある。



主催：大阪平和人権センターTel06-6351-0793／ —イラク戦争12年—  
しないさせない戦争協力・関西ネットワーク(中北法律事務所Tel06-6364-0123)